

江別市学校施設長寿命化計画
2020（令和2）年度～2029（令和11）年度

2020年（令和2年）1月

江別市教育委員会

目次

第1章	学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
1	背景	1
2	目的	1
3	計画の位置付け	1
4	計画期間	2
5	対象施設	2
第2章	学校施設の目指すべき姿	3
1	安全性の確保	3
2	快適性の確保	3
3	機能性の確保	3
4	環境への配慮	4
第3章	学校施設の実態	5
1	学校施設の運営・活用状況	5
(1)	対象施設の使用状況	5
(2)	児童生徒数及び学級数の変化	6
(3)	施設関連経費の推移	7
(4)	学校施設の経過年数別保有量	8
2	学校施設の老朽化の状況	9
(1)	劣化度把握	9
(2)	劣化度調査結果	11
(3)	今後の維持・更新経費（従来型）	13
(4)	今後の維持・更新経費の比較（従来型と長寿命化型）	14
第4章	学校施設整備の基本的な方針等	16
1	学校施設整備の基本的方針	16
2	改修等の基本的な方針	16
(1)	長寿命化改修の方針	16
(2)	目標使用年数と改修周期の設定	17

第5章	学校施設の長寿命化の進め方	18
1	長寿命化の優先順位	18
2	長寿命化改修の進め方	18

第6章	長寿命化計画の継続的運用方針	19
1	情報基盤の整備と活用	19
2	推進体制の整備	19
3	フォローアップ	19

資料編

- 1-1 小学校配置図（棟別建築年数表示）
- 1-2 中学校配置図（棟別建築年数表示）

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

平成25年11月、国は、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係る総費用の縮減や予算の平準化を図る方向性を示した「インフラ長寿命化基本計画」を策定しました。

これを踏まえ、平成27年3月、文部科学省では、管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取り組みの方向性を明らかにするため、「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

また、本市においては、平成28年3月、国が策定した「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、公共施設等を総合的かつ計画的に管理するための基本的な方針や考え方を示す「江別市公共施設等総合管理計画」を策定し、具体的な施設の在り方等については、個別施設計画に委ねることとしています。

2 目的

本市の学校施設は、市街地の拡大や児童生徒数の増加等に伴い、多くの施設が昭和40年代から50年代にかけて建設され、老朽化が進んでいることから、維持管理費や、大規模改造^{注1}などの工事費等が増大し、厳しい財政状況が続く中にあっては、長期的な視点をもって、計画的に整備していく必要があります。

また、時代の変化に対応した特色ある教育活動の展開に対応するとともに、児童生徒の学習及び生活の場として、安全・安心で快適な学習・生活環境を確保するため、学習施設の整備・充実を図っていく必要があります。

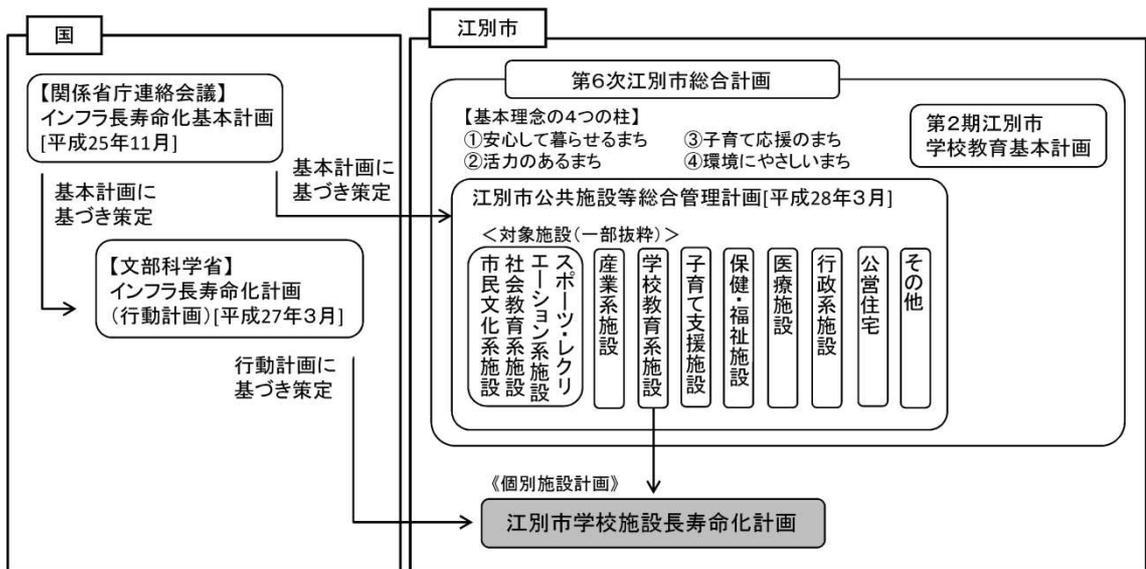
以上のことから、学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化を行うことにより、中長期的な維持管理経費を検証し、経費の縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

なお、文部科学省からは、2020年度（令和2年度）までに学校施設に係る長寿命化計画の策定に取り組むよう求められています。

3 計画の位置付け

「江別市学校施設長寿命化計画」（以下「本計画」という。）は、「江別市公共施設等総合管理計画」に基づく、学校施設の個別計画として位置付けます（【図表1-1】参照）。

^{注1} 大規模改造：経年劣化した建物や設備の大部分を改修し、原状回復を図ること。老朽化した外装及び内装の改修が該当するほか、断熱化や設備の省エネルギー化等のエコ改修も含まれる。



【図表 1-1】 江別市学校施設長寿命化計画の位置付け

4 計画期間

本計画の計画期間は、2020年度（令和2年度）から2029年度（令和11年度）までの10年間とします。

なお、社会状況の変化等を踏まえて、必要に応じて見直しを行うこととします。

5 対象施設

本計画の対象施設は、市立の小学校17校、中学校8校の校舎及び屋内運動場とします。

第2章 学校施設の目指すべき姿

1 安全性の確保

学校施設は、児童生徒の教育活動の場のみならず、災害発生時には、地域住民の避難所の役割を果たすことから、安全性の確保は極めて重要であります。

市内小中学校における構造躯体^{注2}の耐震化や体育館の落下防止対策は、平成28年度までに完了していますが、被災後の施設の損傷を最小限にとどめることや、防犯対策も進めていく必要があります。

2 快適性の確保

学校施設は、児童生徒にとって多くの時間を過ごす生活の場でもあることから、水道、電気、ガス等の機能を最低限維持することはもとより、学校環境衛生基準^{注3}に基づき、採光や照明、空気環境等を管理し、児童生徒が快適に過ごせる環境を整備していく必要があります。

また、災害時の避難所機能向上の観点から、トイレの洋式化や、障がいの有無等に関わらず、誰もが安心して快適に利用できるよう、ユニバーサルデザイン^{注4}への配慮も必要となります。

3 機能性の確保

本市では、ティーム・ティーチング^{注5}や少人数指導など個に応じたきめ細やかな学習指導に取り組んでいます。

また、小中学校の全学級に電子黒板を配置しているほか、全小中学校のパソコン教室にタブレット型パソコンを整備するなど、ICT機器を活用した授業も行っています。

このように、社会環境の変化に伴い、教育内容や教育方法等も変化しており、多様な学習内容・学習形態に対応できる教育環境が求められていることから、多様な学習活動に対応できる空間や、ICT教育環境を充実していく必要があります。

注2 構造躯体：柱、梁、壁、基礎等、建物を支える骨組であり、構造耐力上主要な部分。

注3 学校環境衛生基準：「学校における換気、採光、照明、保湿、清潔保持その他環境衛生に係る事項について、児童生徒等及び職員の健康を保護するうえで維持されることが望ましい」ものとして、文部科学大臣が定める基準。（学校保健安全法第6条）

注4 ユニバーサルデザイン：すべての人が使いやすいように配慮した製品や建物、空間等の設計。

注5 ティーム・ティーチング：複数の教員等が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のこと。

4 環境への配慮

本市では、平成26年3月に「江別市環境管理計画後期推進計画」を策定し、環境への負荷が少なく、持続的な発展が可能な社会形成に向け、CO₂やごみ排出量の削減などに取り組んでいます。

学校施設においても、照明や暖房等の高効率化、断熱性能の改善等による使用燃料の削減、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮した施設整備を進める必要があります。

第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営・活用状況

(1) 対象施設の使用状況

本市には、【図表 3-1】のとおり、小学校・中学校を合わせて、学校施設が25校あります。

延床面積は、小学校全体で9万766㎡、中学校全体は4万9,855㎡あり、小学校・中学校を合わせると延床面積は14万621㎡になります。

なお、普通学級は、小学校189学級、中学校90学級、特別支援学級は、小学校49学級、中学校25学級あり、合計353学級を有しています。

令和元年5月1日現在

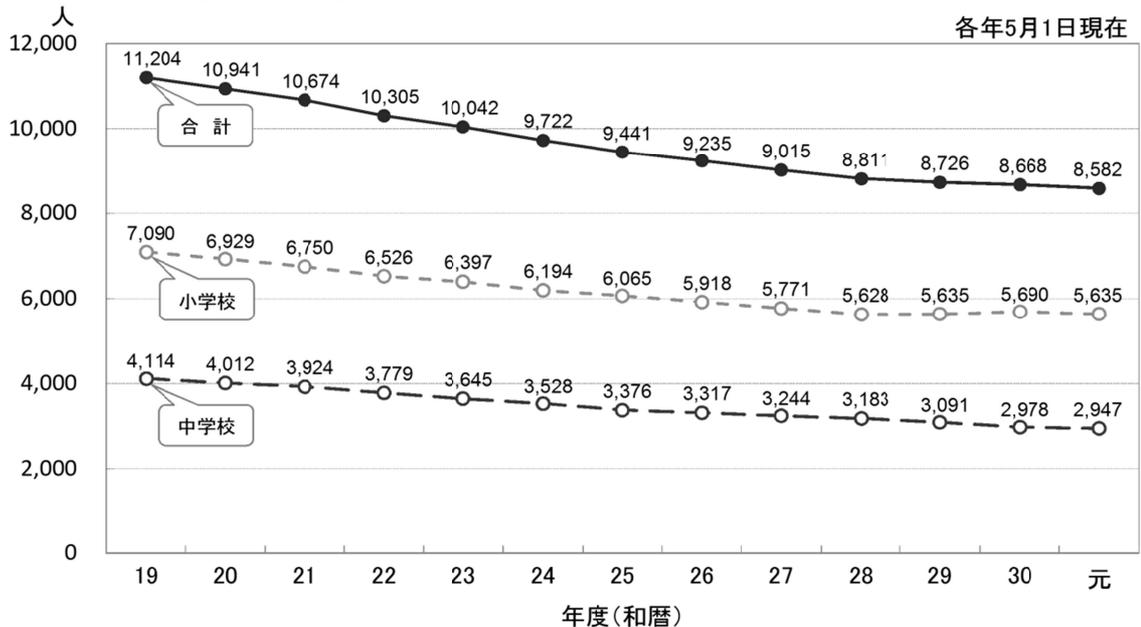
名 称	住 所	対象施設の 延床面積 (㎡)	児童生徒数(人)		学級数(学級)			
			普通学級	特別支援	普通学級	特別支援		
小 学 校	1	江別第一小学校	緑町西1丁目37	6,795	438	14	13	3
	2	江別第二小学校	野幌代々木町39	7,045	544	16	18	4
	3	豊幌小学校	豊幌419	4,078	103	5	6	2
	4	江別太小学校	朝日町25-2	6,294	408	19	13	6
	5	大麻小学校	大麻宮町2	5,142	327	12	12	3
	6	対雁小学校	見晴台17-1	6,804	628	16	19	3
	7	野幌小学校	西野幌252	2,309	76	-	6	-
	8	東野幌小学校	東野幌町48	7,102	395	14	13	3
	9	大麻東小学校	大麻東町32	6,564	332	7	12	2
	10	大麻西小学校	大麻扇町1	4,148	291	10	11	3
	11	中央小学校	向ヶ丘54	5,778	378	21	12	5
	12	大麻泉小学校	大麻泉町27	4,090	222	8	7	2
	13	野幌若葉小学校	野幌若葉町5-3	4,864	324	7	12	2
	14	北光小学校	篠津805-3	2,681	24	2	4	2
	15	文京台小学校	文京台70	4,670	162	7	6	3
	16	いずみ野小学校	対雁113-1	5,219	150	6	6	3
	17	上江別小学校	ゆめみ野南町9-3	7,183	657	12	19	3
小学校計			90,766	5,459	176	189	49	
中 学 校	1	江別第一中学校	上江別西町40	8,173	464	14	14	4
	2	江別第二中学校	野幌代々木町53	5,111	283	10	9	3
	3	江別第三中学校	牧場町21	5,735	233	3	8	2
	4	野幌中学校	西野幌92-3	6,277	348	5	10	3
	5	大麻中学校	大麻宮町1	6,359	427	8	13	3
	6	大麻東中学校	大麻697	6,162	298	10	10	3
	7	江陽中学校	萌えぎ野中央10-2	4,738	263	4	9	2
	8	中央中学校	新栄台57	7,300	567	10	17	5
中学校計			49,855	2,883	64	90	25	
小・中学校計			140,621	8,342	240	279	74	

【図表 3-1】対象施設の使用状況

(2) 児童生徒数及び学級数の変化

小学校・中学校の児童生徒数は、平成10年を境に、人口増加率の減少や少子化等の影響により、平成11年からは減少傾向に転じています。

平成28年に9年ぶりに本市の人口が社会増^{注6}に転じたことから、児童生徒数の減少は鈍化傾向にあります。今後も減少傾向は続いていくものと予想されます。平成19年度から令和元年度までの児童生徒数・学級数の推移の一覧は【図表3-2】のとおりです。



区分 年度	小学校									中学校					児童生徒数計			
	学校数	学級数	教員数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	学校数	学級数	教員数	1年生		2年生	3年生	計
平成19	19	247	430	1,063	1,113	1,140	1,245	1,251	1,278	7,090	10	130	288	1,396	1,339	1,379	4,114	11,204
20	19	245	419	1,058	1,078	1,119	1,151	1,266	1,257	6,929	10	129	289	1,265	1,401	1,346	4,012	10,941
21	19	244	417	1,036	1,055	1,091	1,138	1,152	1,278	6,750	10	128	287	1,245	1,273	1,406	3,924	10,674
22	19	238	419	1,016	1,036	1,066	1,108	1,149	1,151	6,526	10	124	284	1,262	1,247	1,270	3,779	10,305
23	19	238	383	953	1,034	1,055	1,073	1,127	1,155	6,397	9	120	238	1,130	1,263	1,252	3,645	10,042
24	19	236	377	900	963	1,049	1,062	1,084	1,136	6,194	9	115	227	1,133	1,134	1,261	3,528	9,722
25	19	239	390	991	905	965	1,051	1,072	1,081	6,065	8	110	218	1,113	1,131	1,132	3,376	9,441
26	19	245	397	883	1,006	912	982	1,057	1,078	5,918	8	112	224	1,067	1,116	1,134	3,317	9,235
27	19	247	404	897	896	1,000	929	993	1,056	5,771	8	116	227	1,055	1,075	1,114	3,244	9,015
28	18	239	393	863	916	919	1,003	936	991	5,628	8	117	228	1,053	1,056	1,074	3,183	8,811
29	18	242	394	926	872	948	927	1,023	939	5,635	8	115	225	970	1,059	1,062	3,091	8,726
30	17	245	397	914	944	894	964	942	1,032	5,690	8	112	218	937	982	1,059	2,978	8,668
令和元	17	238	397	908	926	962	915	982	942	5,635	8	115	223	1,015	948	984	2,947	8,582

【図表3-2】 児童生徒数・学級数の推移

注6 社会増：江別市への転入者数が、他地域への転出者数を上回ること。

(3) 施設関連経費の推移

直近5年間（平成26年度から平成30年度）における学校教育施設の施設関連経費の推移は【図表3-3】のとおりです。

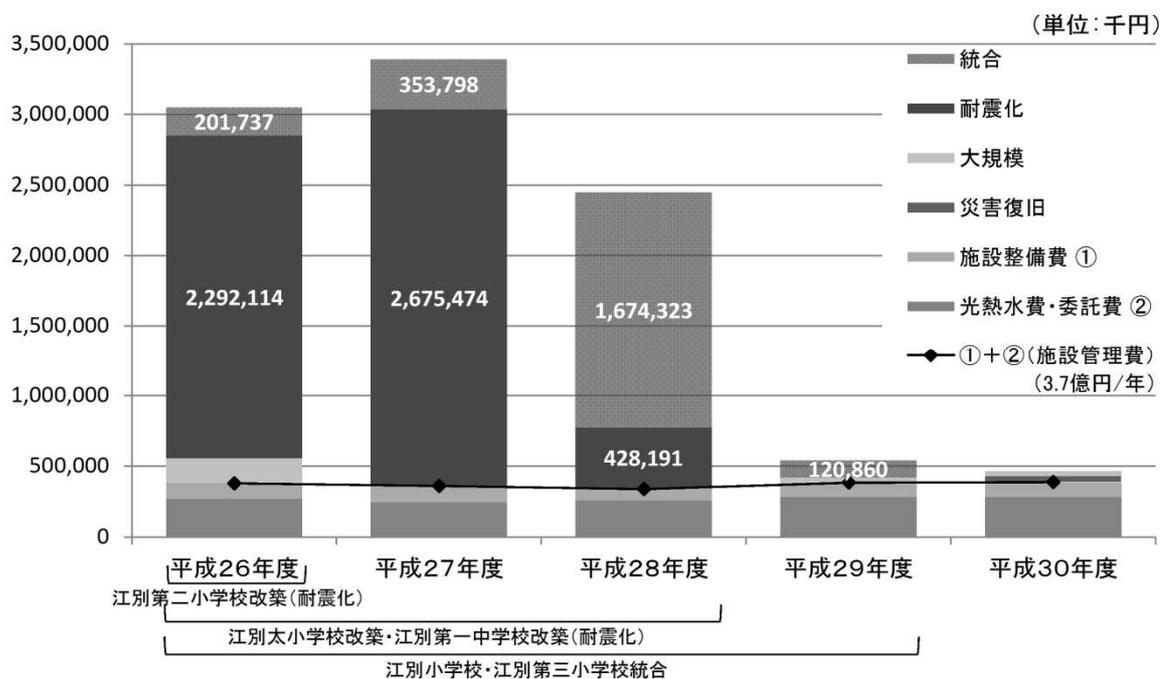
平成28年度までは、平成25年度から開始した江別第二小学校と江別第一中学校校舎の改築^{注7}、江別太小学校の校舎・体育館の改築のほか、平成28年度の江別小学校と江別第三小学校の統合に伴う江別第一小学校の改築により、20億円を超える経費となっています。

なお、学校施設の耐震化と体育館の落下防止対策は、これらの校舎の改築によるものを含め、平成28年度をもってすべて完了しています。

また、改築や大規模改造に係る経費を除く通常必要とする施設管理費（光熱水費、委託費、施設整備費等）は、概ね3.7億円程度で推移しています。

（単位：千円）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
統合	201,737	353,798	1,674,323	120,860	0	470,144
耐震化	2,292,114	2,675,474	428,191	0	0	1,079,156
大規模	177,976	0	6,880	35,456	37,630	51,588
災害復旧	0	0	0	0	40,822	8,164
施設整備費①	109,365	117,790	81,360	100,973	105,248	102,947
光熱水費・委託費②	269,133	242,788	257,207	282,337	282,704	266,834
施設関連経費合計	3,050,325	3,389,850	2,447,961	539,626	466,404	1,978,833



【図表3-3】直近5年間の施設関連経費合計

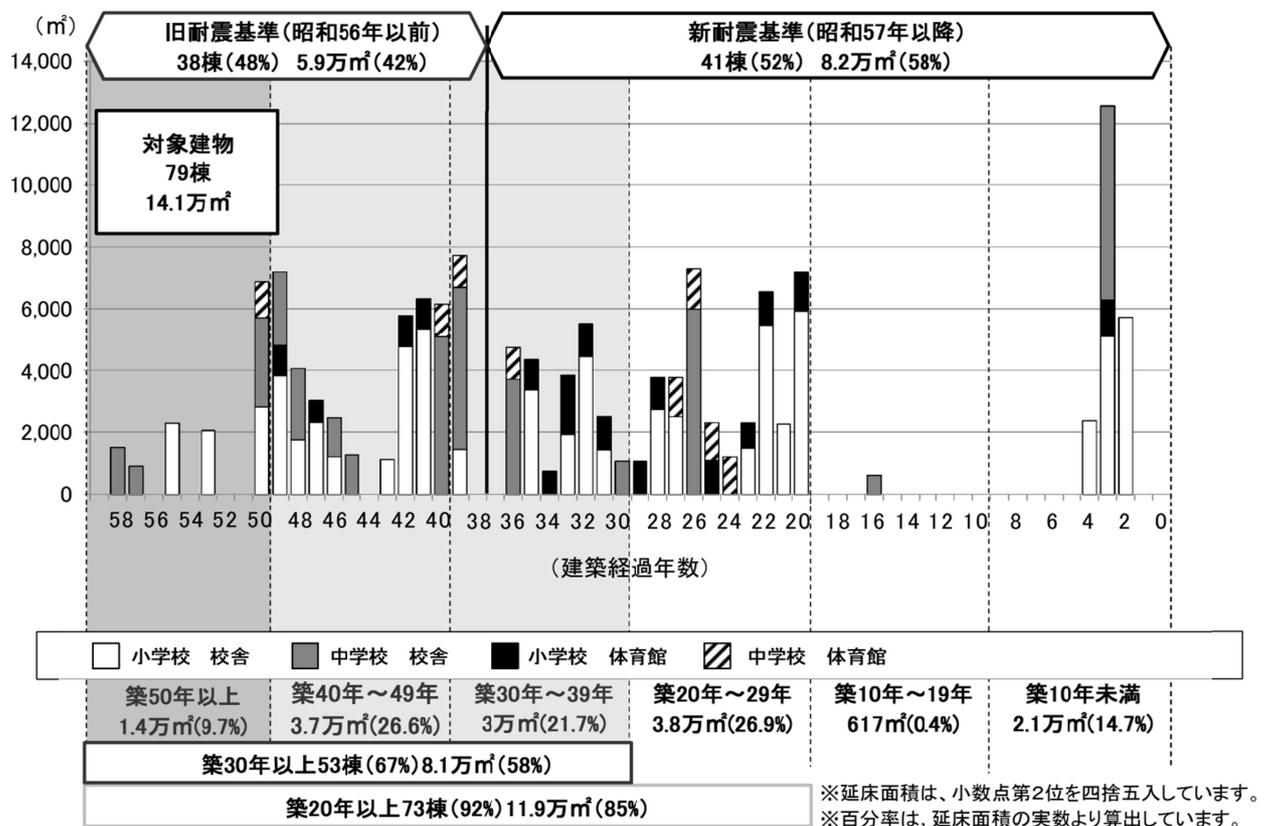
^{注7} 改築：老朽化により構造上危険な状態にあつたり、教育上、著しく不適当な状態にあつたりする既存の建物を「建替える」こと。建替え後の建築物が従前の建築物と比べて用途や規模、構造が著しく異なる場合を「改築」、大きく異なる場合を「新築」という。

(4) 学校施設の経過年数別保有量

小学校・中学校は、建築後30年以上経過した建物が、全体の58.0%（概ね8万1,572㎡）を占めており、老朽化の進行が顕著となっています。

また、築30年以上経過した建物は、今後10年間で85.0%（概ね11万9,323㎡）に達し、建替えや改修を必要とする建物の増加に伴う経費の増加が見込まれます。

このため、厳しい財政状況の中、従来の築50年程度で改築する手法では、対応が難しくなることが予想されます。



【図表 3-4】 経過年数別学校施設面積

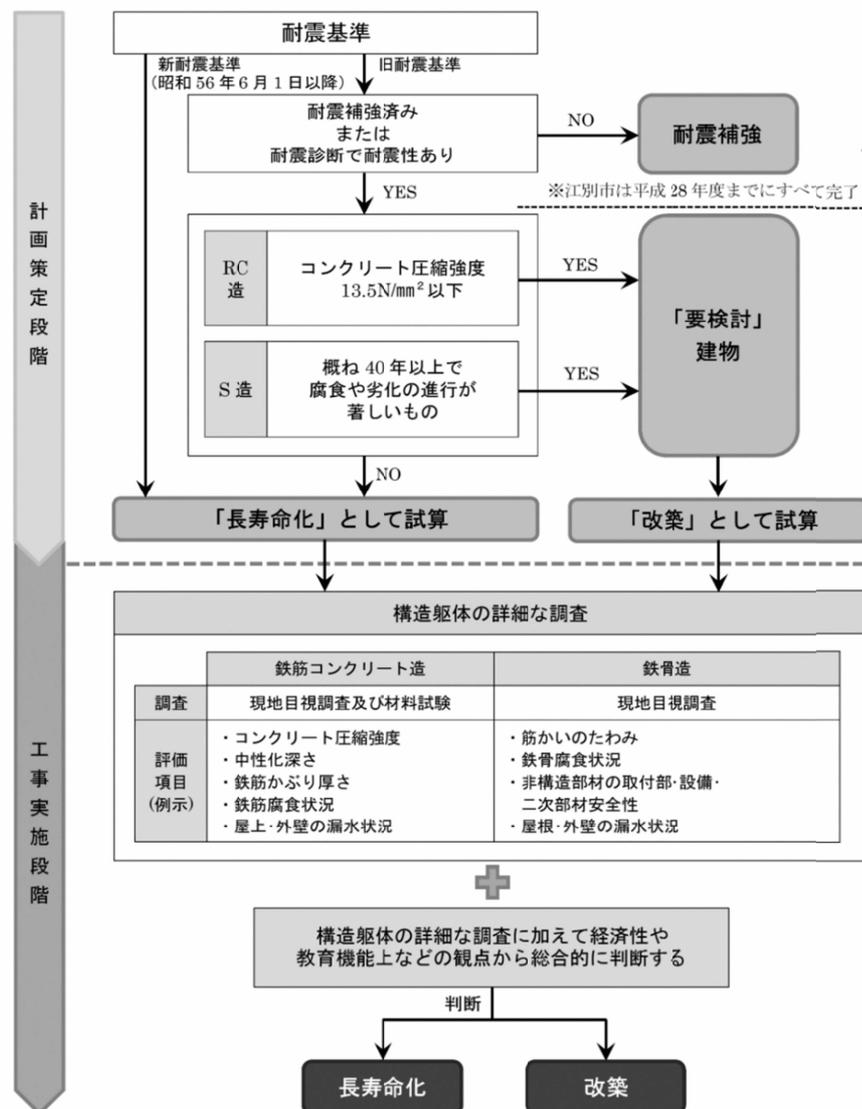
2 学校施設の老朽化の状況

(1) 劣化度把握

老朽化の状況は、「構造躯体の健全性調査」と「構造躯体以外の劣化状況調査」の2つの調査を実施しました。

構造躯体の健全性調査

構造躯体の健全性は、【図表 3-5】の判定フローに従って、過去に実施した耐震診断結果やコンクリート圧縮強度試験結果をもとに、建築士（教育委員会職員）が現地調査等により確認し、その後、同フローに基づき、長寿命化改修^{注8}の実施施設としての適否判定を行いました。



【図表 3-5】長寿命化の判定フロー（「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」）（文部科学省）より

^{注8} 長寿命化改修：建物の耐用年数を延ばすために、物理的な不具合を直し耐久性を高めることに加え、機能や性能を求められる水準まで引き上げるため施設全体の改修を行うこと。

構造躯体以外の劣化状況調査

構造躯体以外の劣化状況は、【図表 3-6】に示す基準に基づいて建築士（教育委員会職員）による現地調査を実施しました。

屋根・屋上と外壁は、目視検査を行い、また、内部仕上げ、電気設備、機械設備は、目視検査に加えて経過年数（建築後、又は改修後の経過年数）から推測される劣化状況を含めて総合的に判断し、劣化度を評価しました。

なお、この劣化状況調査は、AからDの4段階に分けて評価し、屋根・屋上等の「健全度」を表します。

目視による評価【屋根・屋上、外壁】		経過年数による評価 【内部仕上げ、電気設備、 機械設備】		
評価	基準	評価	基準	
良好	A	概ね良好	A	20年未満
	B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)	B	20～40年
	C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)	C	40年以上
劣化	D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等	D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

【図表 3-6】評価基準（「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」）（文部科学省）より

(2) 劣化度調査結果

○小学校

 : 築50年以上 : 築30年以上 基準 2019/5/1 現在 A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化 D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報							構造躯体の健全性					劣化状況評価							
学校名	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年		耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)	
					西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度	圧縮※強度(N/mm ²)							試算上の区分
江別第一小学校	校舎棟	RC	3	5,731	2016	H28	2	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
	体育館	S	1	1,064	1990	H2	29	新	-	-			長寿命	A	A	B	B	B	84
江別第二小学校	東校舎棟	RC	2	1,271	1968	S43	50	旧	済	済	H21	20.1	長寿命	B	C	C	C	C	43
	中央校舎棟	RC	2	2,243	1977	S52	41	旧	済	不要	H21	24.6	長寿命	B	B	C	C	C	53
	西校舎棟	RC	2	2,375	2014	H26	4	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
	体育館	S	2	1,156	1985	S60	33	新	-	-			長寿命	C	B	B	B	B	72
豊幌小学校	中央校舎棟	RC	2	1,982	1992	H4	27	新	-	-			長寿命	C	B	B	B	B	72
	北校舎棟	RC	2	1,346	1997	H9	22	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	1	750	1984	S59	34	新	-	-			長寿命	C	B	B	B	B	72
江別太小学校	校舎	RC	3	5,094	2015	H27	3	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
	体育館	RC	2	1,200	2015	H27	3	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
大麻小学校	北校舎棟	RC	2	2,058	1965	S40	53	旧	済	済	H21	18.4	長寿命	C	C	C	C	C	40
	南校舎棟	RC	2	1,551	1968	S43	50	旧	済	済	H21	22.3	長寿命	C	C	C	C	C	40
	体育館付属棟	RC	1	500	1991	H3	28	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,033	1991	H3	28	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
対雁小学校	南校舎棟	RC	3	1,210	1972	S47	46	旧	済	不要	H18	18.5	長寿命	A	C	C	C	C	45
	中央校舎棟	RC	2	853	1987	S62	32	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	西校舎棟	RC	2	1,430	1988	S63	31	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
	北校舎棟	RC	2	2,232	1991	H3	28	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
	体育館	S	2	1,079	1987	S62	31	新	-	-			長寿命	D	B	B	B	B	69
野幌小学校	校舎棟	RC	2	1,484	1996	H8	23	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	1	825	1996	H8	23	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
東野幌小学校	北校舎棟	RC	3	2,293	1963	S38	55	旧	済	済	H21	13.8	長寿命	B	B	C	C	C	53
	東校舎棟	RC	3	1,449	1979	S54	39	旧	済	不要	H21	17.7	長寿命	D	B	C	C	C	47
	南校舎棟	RC	3	2,269	1998	H10	21	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
	体育館	S	2	1,091	1993	H5	25	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
大麻東小学校	中央校舎棟	RC	3	3,815	1969	S44	49	旧	済	済	H20	23.3	長寿命	B	C	C	C	C	43
	西校舎棟	RC	3	1,756	1970	S45	48	旧	済	済	H20	22.3	長寿命	B	C	C	C	C	43
	体育館	S	2	993	1969	S44	49	旧	済	済			長寿命	B	C	C	C	C	43
大麻西小学校	東校舎棟	RC	2	2,316	1971	S46	47	旧	済	不要	H19	14.7	長寿命	B	B	C	C	C	53
	西校舎棟	RC	3	1,126	1975	S50	43	旧	済	不要	H19	20.3	長寿命	A	C	C	C	C	45
	体育館	S	2	706	1971	S46	47	旧	済	済			長寿命	B	C	C	C	C	43
中央小学校	北校舎棟	RC	3	4,219	1976	S51	42	旧	済	済	H15	23.5	長寿命	B	C	C	C	C	43
	南校舎棟	RC	1	553	1976	S51	42	旧	済	不要	H15	36.5	長寿命	B	C	C	C	C	43
	体育館	S	1	1,006	1976	S51	42	旧	済	済			長寿命	B	C	C	C	C	43
大麻泉小学校	東校舎棟	RC	3	2,214	1977	S52	41	旧	済	済	H17	18.3	長寿命	B	B	C	C	C	53
	中央管理棟	RC	1	240	1977	S52	41	旧	済	済	H17	28.2	長寿命	B	B	C	C	C	53
	西校舎棟	RC	1	666	1977	S52	41	旧	済	済	H17	23.3	長寿命	B	B	C	C	C	53
	体育館	S	2	970	1977	S52	41	旧	済	不要			長寿命	B	B	C	C	C	53
野幌若葉小学校	中央校舎棟	RC	3	3,366	1984	S59	35	新	-	-			長寿命	C	C	B	B	B	62
	南校舎棟	RC	3	517	1992	H4	27	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
	体育館	S	2	981	1983	S58	35	新	-	-			長寿命	C	B	B	B	B	72

建物基本情報							構造躯体の健全性					劣化状況評価							
学校名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
					西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮※強度 (N/mm)	試算上の区分						
北光小学校	校舎棟	RC	2	1,932	1986	S61	33	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
	体育館	S	1	749	1985	S60	33	新	-	-			長寿命	A	B	B	B	B	77
文京台小学校	校舎棟	RC	3	3,578	1987	S62	32	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,092	1986	S61	32	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
いずみ野小学校	校舎棟	RC	2	4,127	1997	H9	22	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,092	1997	H9	22	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
上江別小学校	校舎棟	RC	3	5,927	1999	H11	20	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,256	1999	H11	20	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75

○中学校

建物基本情報							構造躯体の健全性					劣化状況評価							
学校名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
					西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮※強度 (N/mm)	試算上の区分						
江別第一中学校	西校舎棟	RC	2	617	2002	H14	16	新	-	-			長寿命	C	B	A	A	A	88
	校舎棟	RC	3	6,281	2015	H27	3	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
	体育館	S	2	1,275	1992	H4	27	新	-	-			長寿命	B	C	B	B	B	65
江別第二中学校	東校舎棟	RC	1	471	1970	S45	49	旧	済	済	H20	33.5	長寿命	B	C	C	C	C	43
	北2線校舎棟	RC	3	1,918	1970	S45	49	旧	済	済	H20	20.2	長寿命	B	D	C	C	C	34
	南1線校舎棟	RC	2	1,510	1960	S35	58	旧	済	済	H20	12.1	改築	C	C	C	C	C	40
	体育館	S	2	1,212	1995	H7	24	新	-	-			長寿命	C	C	B	B	B	62
江別第三中学校	南校舎棟	RC	2	907	1961	S36	57	旧	済	済	H19	13.8	長寿命	A	B	D	C	C	44
	中央校舎棟(西)	RC	3	1,262	1972	S47	46	旧	済	不要	H19	20.7	長寿命	A	D	D	C	C	25
	中央校舎棟(東)	RC	3	1,278	1973	S48	45	旧	済	不要	H19	17	長寿命	A	D	D	C	C	25
	北校舎棟	RC	2	1,069	1989	H元	30	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,219	1994	H6	25	新	-	-			長寿命	D	C	B	B	B	59
野幌中学校	北校舎棟	RC	3	3,182	1979	S54	39	旧	済	済	H17	26.3	長寿命	B	B	C	C	C	53
	東校舎棟	RC	3	2,069	1979	S54	39	旧	済	不要	H17	33.4	長寿命	B	B	C	C	C	53
	体育館	S	1	1,026	1979	S54	39	旧	済	済			長寿命	B	B	C	C	C	53
大麻中学校	中央校舎棟	RC	2	1,694	1968	S43	50	旧	済	済	H18	18.6	長寿命	C	C	C	C	C	40
	西校舎棟	RC	3	1,197	1968	S43	50	旧	済	済	H18	15.6	長寿命	C	B	C	C	C	50
	東校舎棟	RC	3	1,022	1970	S45	48	旧	済	済	H18	24.5	長寿命	C	C	C	C	C	40
	南校舎棟	RC	2	1,281	1970	S45	48	旧	済	済	H18	27.6	長寿命	A	C	C	C	C	45
	体育館	S	2	1,165	1968	S43	50	旧	済	済			長寿命	B	B	C	C	C	53
大麻東中学校	北校舎棟	RC	2	2,049	1979	S54	40	旧	済	不要	H16	21.4	長寿命	B	C	C	C	C	43
	中央校舎棟	RC	2	1,048	1979	S54	40	旧	済	不要	H16	25.4	長寿命	B	B	C	C	C	53
	南校舎棟	RC	3	1,993	1979	S54	40	旧	済	済	H16	21.5	長寿命	B	C	C	C	C	43
	体育館	S	2	1,072	1979	S54	40	旧	済	不要			長寿命	B	B	C	C	C	53
江陽中学校	西校舎棟	RC	3	1,934	1983	S58	36	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	東校舎棟	RC	3	1,777	1983	S58	36	新	-	-			長寿命	C	B	B	B	B	72
	体育館	S	2	1,027	1982	S57	36	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
中央中学校	校舎棟	RC	3	6,000	1993	H5	26	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
	体育館	S	2	1,300	1993	H5	26	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75

※構造：RCとは鉄筋コンクリート造、Sとは鉄骨造を示します。

旧耐震基準の鉄筋コンクリート造の建物については、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」の判定基準により13.5N/mm²超を長寿命化改修の対象とします。

※建物名が該当する棟の位置については、末尾の資料1-1及び1-2の学校配置図を参照願います。

【図表3-7】学校施設劣化状況

(3) 今後の維持・更新経費（従来型）

改築と大規模改造による従来型管理^{注9}を行った場合、次の条件で試算すると、今後30年間で必要となる経費は総額で概ね476億円程度（16億円/年）と推計されます。

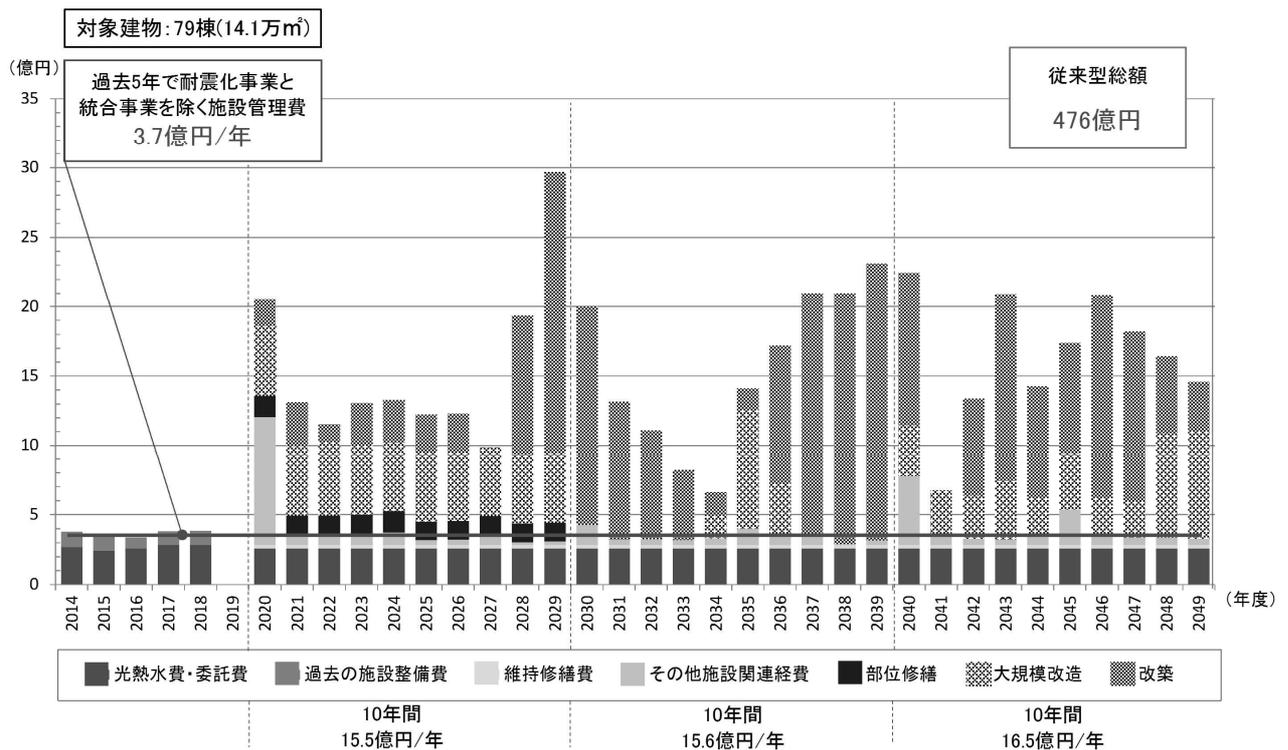
試算条件

改築周期は、江別市公共施設等総合管理計画の試算条件に基づき60年とし、その他諸条件は次のとおり設定します。

工種	周期	建替・修繕期間	校舎の工事単価	体育館の工事単価
改築	60年	2年	267,000円/m ²	405,000円/m ²
大規模改造	20年	1年	66,750円/m ²	89,100円/m ²
部位修繕	今後10年以内に計上	1年	建物用途、部位及び判定区分に応じて、改築単価に対する割合を設定	

※改築に係る単価は、本市の実績から算出しています。

また、大規模改造に係る単価は、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考に、校舎は改築単価の25%、体育館は改築単価の22%としています。



【図表 3-8】 今後の維持・更新経費（従来型）

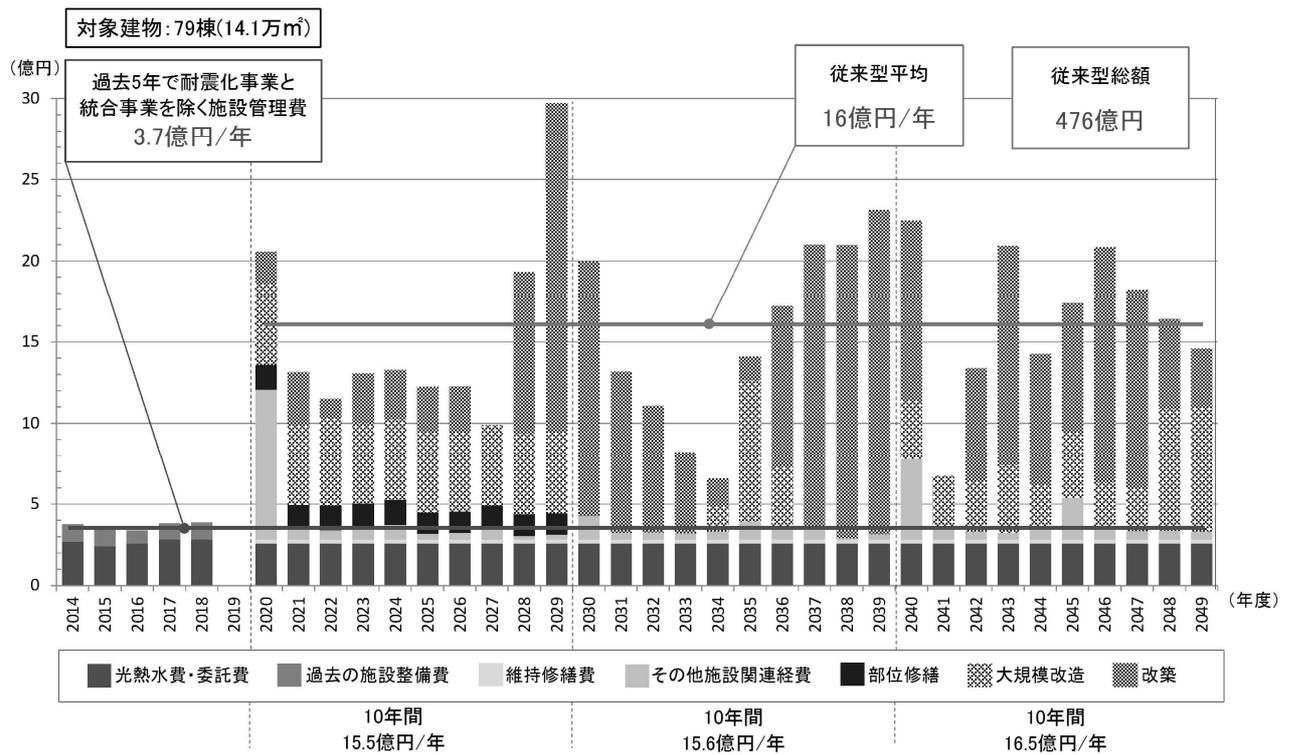
^{注9} 従来型管理：建物や機械・電気設備等において、不具合が出た箇所のみを事後的に修繕し、建築後50年程度で改築する等の維持管理の方法。

(4) 今後の維持・更新経費の比較（従来型と長寿命化型）

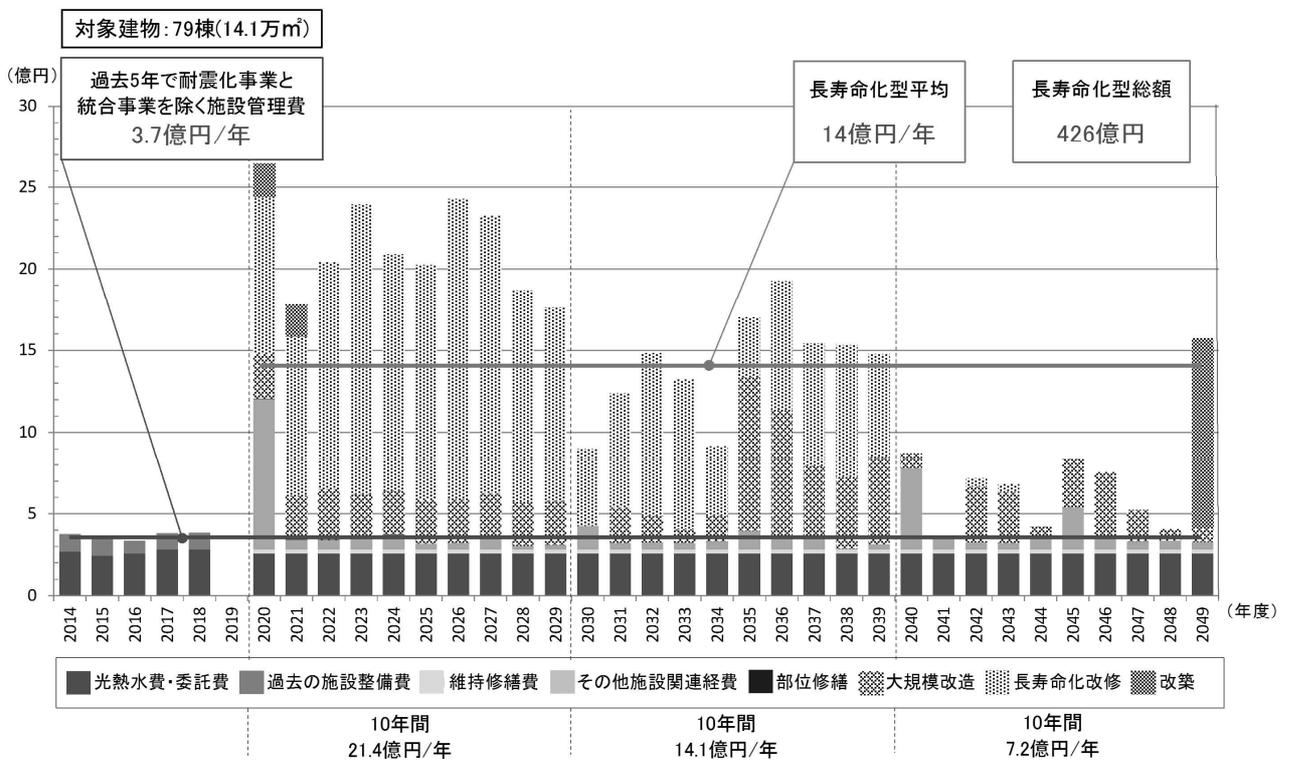
従来型管理と長寿命化型管理の維持・更新経費を比較します。

【図表 3-9】及び【図表 3-10】に示すとおり、長寿命化改修により従来型の50年から80年に建物を長寿命化した場合、今後30年間の経費は、概ね426億円（14億円／年）と見込まれます。

改築を前提とした従来型の概ね476億円（16億円／年）と比較して、概ね50億円の経費縮減効果が期待されます。



【図表 3-9】(再掲) 今後の維持・管理経費 (従来型)



【図表 3-10】 今後の維持・管理経費 (長寿命化型)

第4章 学校施設整備の基本的な方針

1 学校施設整備の基本的方針

これまでの学校施設整備は、主に不具合が生じてから対応する事後保全を行ってききましたが、今後は、江別市公共施設等総合管理計画に基づき、予防保全^{注10}による施設管理に移行し、次のとおり進めることとします。

- ・ 損傷が軽微な早期段階で不具合箇所を把握し、予防的な修繕等を実施することで、中長期的な経費の縮減に努めます。
- ・ 長寿命化改修による施設管理を導入することにより、施設を可能な限り長く使用し、経費の縮減と平準化に努めます。
- ・ 災害時の避難所として、すべての人が使いやすいように配慮し、避難所として機能するよう考慮の上、整備していきます。
- ・ 余裕教室が生じる場合には、教育内容や教育方法等の変化に適応させること等に留意した上で、有効活用を検討していきます。
- ・ 市内における各地区の児童生徒数推計や国の動向などに留意しながら、改築時期や改修内容を検討していきます。

2 改修等の基本的な方針

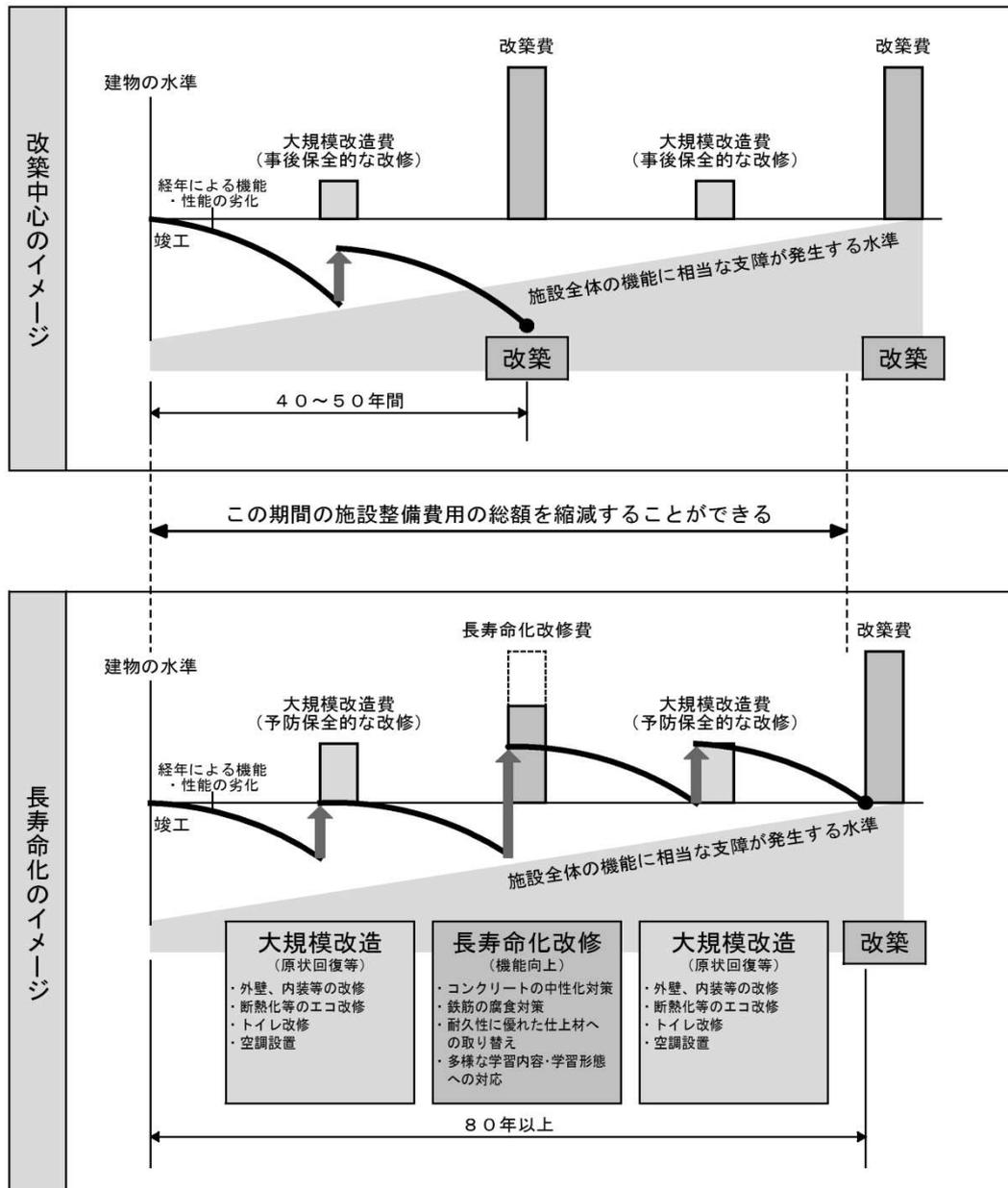
(1) 長寿命化改修の方針

学校施設の整備は、改築（建替え）を中心とした考え方から、長期間使用することを目的とした長寿命化を図る整備に切り替えます。

これにより、改築と比べて工事費が安価となり、併せて日常的な維持管理を計画的に行うことで、施設関連経費の平準化を図り、中長期的な総費用を縮減していきます。

また、工期を短縮し、廃棄物や二酸化炭素の排出量を抑制することで、環境負荷を軽減します。

^{注10} 予防保全：建物を定期的に点検・診断し、異常や致命的な欠陥が発現する前に対策を講じること。



※長寿命化改修では内外装や各種設備等を更新しますが、構造躯体（柱や梁）は再利用するため、改築に比べて工事費用の縮減や工期の短縮を行うことができます。

【図表 4-1】施設整備イメージ（「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」（文部科学省）より

（２）目標使用年数と改修周期の設定

学校施設の目標使用年数は80年以上とし、既に建築後50年以上経過した建物については、長寿命化改修の実施後から30年使用することを目標とします。

また、改修周期は、建築から20年程度経過後に、機能回復を目的とした予防保全的な改修（大規模改造）を行い、目標使用年数の中間期（建築後40年経過）に長寿命化改修を行います。

その後は、改築までの期間に、再度予防保全的な改修を行うこととします。

第5章 学校施設の長寿命化の進め方

1 長寿命化の優先順位

建築後50年以上経過した学校施設は、老朽化が著しく、思いがけない破損等により学校運営に支障をきたしかねないことから、早期に長寿命化改修を検討すべき学校施設と位置付けます。

原則として、年数が経過している施設ほど優先度が高いものとし、施設の健全度や工事の効率性を総合的に勘案して決定します。

なお、個別の整備内容や手法等については、財政状況を十分に踏まえながら、毎年度の予算編成と合わせて検討していくこととします。

2 長寿命化改修の進め方

長寿命化改修は、適切な時期に改修工事を実施する必要がありますが、経費の平準化を図るためにも、改修時期がなるべく重ならないよう、計画的に改修を進めていきます。

また、長寿命化改修の実施に当たっては、国の補助事業を活用するほか、学校施設内の隣接する棟を同時に改修することや、減築^{注11}することなども検討し、可能な限り合理的な整備を行うことで、経費を縮減していきます。

^{注11} 減築：学校施設のうち不要となった部分を取り壊すこと。

第6章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

本計画を策定するために現地調査等で収集した、学校施設の基本情報や劣化状況、工事履歴等を一元的に把握し、効率的・効果的な維持管理を行った上で、学校施設を適切に管理していきます。

2 推進体制の整備

本計画は、学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進していくこととし、学校施設は公共施設の一部でもあることから、江別市公共施設等総合管理計画を所管する総務部など関係部署とも連携を図りながら、計画の進捗状況を管理していきます。

3 フォローアップ

本計画は、学校施設の長寿命化改修や整備等の方向性を示めすものですが、学校施設の機能・性能を維持していくため、今後は、継続的に長寿命化改修等を進めていきます。

また、計画期間の範囲内であっても、定期的に学校施設の劣化調査等を行い、点検・評価するとともに、社会状況の変化等を踏まえて、必要に応じて本計画を見直ししていきます。